

青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部

青年部広報誌

第40号

令和4年8月26日発行

「その時代の共存共栄を考える」



山形県建設業協会
鶴岡支部青年部

部長
山田 和博

令和4年度を迎え、皆様におかれましては日々ご活躍の事と心よりお喜び申し上げます。日頃より当青年部の活動につきましまして、関係各位のご理解とご協力に感謝申し上げます。

本年度、鶴岡支部青年部第18代目の部長を仰せつかりました山田和博です。

浅識非才の身ではありますが、職務の重要性を認識し、会員の皆様と一致団結して活動を取り組んでまいりたいと考えておりますので1年間よろしく願ひします。

さて、昨年も、新型コロナウイルス感染症の終息の兆しが見えない中で青年部活動ではありましたが、会員皆様と感染対策を万全にしながら積極的に恒例行事を終えることが出来ました。しかしながら青年部設立30周年記念式典は、オミク

ロン株の感染拡大がつづき、安全第一の観点から中止することになりました。それと同時に、30周年の節目に何か残そうと協議した結果、鶴岡工業高等学校建築科に、ヘルメット寄贈と記念誌発行を計画致しました。

さる3月21日には鶴岡工業高等学校にて寄贈式が行われ、ヘルメットと替え紐50セットを贈呈することが出来ました。今年度から生徒の皆さんは新ヘルメット着用の下、現場見学並びに実習等に安心して使用できると思っております。

また記念誌発行についても、9月発行に向け作業してまいりたいと思います。

近年迫りくる自然災害から地域社会を守るために、防災・減災対策・国土強靱化の推進など、公共工事の円滑な施工は不可欠であり、安全・安心なまちづくりは建設業界の責務であります。しかしながら建設業就業者の現状をみると

	H9	H22	R2
建設業就業者	685万人	498万人	492万人
技術者	41万人	31万人	37万人
技能者	455万人	331万人	318万人

と建設業就業者人口が減少に歯止めがからないうえ、55歳以上が約36%、29歳以下が約12%と高齢化が進行し、次世代への技術継承が大きな課題となっております。

コロナ禍・人口減少・少子高齢化など社会構造の歴史的転換期を迎える中、建設業界の担い手不足を少しでも打開するため、青年部の活動である高校生の現場見学会、就業促進事業の意見交換会などにおいて建設業の重要性・やりがい・魅力を伝えていくことは大きな役割であり、この2年で培った感染対策を武器に、今年度はコロナウイルスと共存を考えながら活動していきたいと思ひます。

最後になりますが、建設業協会に携わる皆様をはじめ、ご支援とご協力を頂いております各関係機関の皆様に対してお礼を申し上げますとともに、健康一番をご祈念申し上げます。

令和3年度

高校生建設業就業促進 事業報告



企画政策委員会
委員長 佐藤 義将

今年度も高校生建設業就業促進事業といたしまして、建設業界における若手の人材不足及び豊富な知識や経験を持つ熟練世代の高齢化の背景を基に、若手人材の就業促進・育成を目的として、平成27年度より「若手人材就業促進事業」を実施し、魅力ある建設業を広くPRする活動を行いました。

- ① 中・高校生用のPRパンフレットのリニューアル。
- ② 高校生用及び中学生用のパンフレットの配布。
- ③ 鶴岡工業高等学校建築科2年生と職場体験学習及び意見交換会等の実施。

以上の3つの活動を行いました。PRパンフレットのリニューアルについては、酒田支部と合同で撮影・編集を行いました。

出来上がったPRパンフレットは管内すべての中・高2年生を対象に1月下旬までに配布しました。

高校生との職場体験学習及び意見交換会は令和3年10月22日に鶴岡工業高等学校 2年生36名の生徒と行いました。当日は、午前中に鶴岡市発注の建築現場を視察した後、田川建設会館にて測量実習（トータルステーション）を行い、午後からは『若手就業者からのメッセージ』を題材に山形県職員・青年部現役技術者から講話をして頂き、最後に高校生と若手技術者との意見交換会という内容で行いました。講話の内容もいろんな観点からの内容であり、生徒からもかなり高評価に見受けられ、質問についても時間が足りないくらい活発な意見がありました。

測量実習については、4人/班の9班に分かれ、各班に青年部の現役技術者が2名講師として付き添いトータルステーションの据付方法

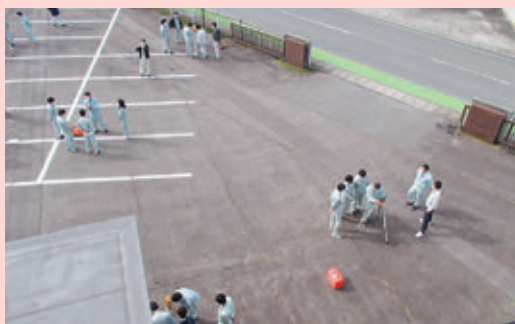
や、計測方法を行いました。

初めて機器を見る生徒もいれば、インターシップで使ったことがある生徒もいて、青年部員の指導のもと、悪戦苦闘しながら機器をセット・観測を行っている様でした。生徒の方も普段授業で習わない機器を使った測量実習に興味津々の面持ちで取り組んでいたのが印象的でした。

就業促進事業を通じて、物づくりの楽しさや、重要性、必要性を発信していき、自分で作り上げる物づくりに対する喜びと誇りを見いだせる仕事だと言う事、魅力ある建設業をもっと次世代へPRして行き、地元建設業の活性化に繋がりたいと思います。

最後に、この事業に対して御協力頂いた県立鶴岡工業高等学校建築科の皆様をはじめ、山形県庄内総合支庁の皆様、本当にありがとうございました。





令和3年度 河川愛護活動 事業報告



地域貢献委員会
委員 板垣 敬一郎

令和3年度も鶴岡支部青年部で、『山形県ふるさとの河川愛護活動支援事業』を6月29日に行いました。

毎年、6月5日の大山犬祭り前に青年部で行っている事業ではありますが、今年度も、昨年度同様に周辺地域等の新型コロナウイルス感染症の拡大状況をふまえ、時期をずらして行いました。また、例年、河川愛護活動の一環として大山小学校の3年生と合同で河川周辺のごみ拾い等を行っていましたが、小学校の担当の先生と相談した結果、河川周辺の毛虫の発生状況や感染症の拡大状況を考慮し、本年度は小学生の参加を取止め、青年部で行う運びとなりました。

当日は、青年部員27名で河川の草刈りとゴミ拾いを行いました。春から夏に替わる時期で気温は少し高い

ものの曇り空で、作業するには実に良い一日となりました。

草刈りの活動では、河川の草木が人の背丈ほど生い茂っており、大変な作業ではありましたが、みんなで川を綺麗にしようと、気持ちの良い汗をかきながら行っていました。

感染拡大が落ち着いた時期ではありましたが、各自マスクをし、大きな声を出さずに声を掛け合いまた合図し、意思疎通を図りながら距離を取り、感染対策をしっかり行いながら黙々と行いました。

普段から仕事でも事故やケガなど無いよう気を付けているみなさんです。ので周囲や足元の状況を丁寧に確認し無事に作業を終えることが出来ました。

コロナ禍で、地域の方々と頻繁につながりを持つ事が難しい時期ですが、まずは、健康と安全を第一に気を付けて、これからも地域の方と一緒にふるさとの河川の美化活動に積

極的に取り組みたいと改めて思いました。

事業の打合せや準備の際、関係庁所や大山小学校、地域自治会の皆様方には大変お世話になりました。

これからも、小学生の方々も参加できるよう、害虫対策など随時ご相談しながら、この活動を継続できればと思います。

最後に当事業にご協力いただきました青年部員の皆さん、関係各所の方々ありがとうございました。

今後とも指導のほどよろしくお願い申し上げます。



令和3年度

高校生現場見学会 事業報告



企画政策委員会
副委員長 田中 実

山形県建設業協会鶴岡支部青年部の重要事業であり、企画政策委員会の活動の一環でもある「高校生現場見学会」を、令和3年11月15日にコロナ対策を入念に行いながら実施しました。

本事業内容は、将来における建設人材確保育成の一環として、県立鶴



岡工業高等学校の1年生を対象に、日々の授業や実習では学ぶことが出来ない実際の工事現場を見学してもらい、今後の授業や実習、就職に役立てて貰えるよう活動している事業となります。

今年度は、鶴岡工業高等学校建築科1年生（生徒40名、引率2名、計42名）と当支部青年部員（30名）で、建築現場3現場、土木現場1現場、計4現場を見学しました。

各見学現場において、現場所長さんより工事の概要や現場の特徴、使用している工法や技術などを説明して頂き、現場内にある安全通路を通じて建築中の建物や建設中の構造物の間近で、普段なかなか見ることが出来ない構造体の中身や足場の仕組み、高速道路の作り方などを見て回りました。

見学が終わり、質疑応答が随時行われますが、生徒さんたちは積極的

に質問をしていて、所長さんがわかりやすく答えたのを必死にメモしていたのが印象的でした。日頃の授業では、なかなか学ぶことが少ない建物や現場の様子、職人の動きや職種などをつぶさに目を輝かせて見学しておりました。

見学会終了後に実施したアンケートの結果においても、生徒達に貴重な体験・時間を提供出来たと思います。

今後この事業を通じて、1人でも多くの方が建設業に興味を抱き、業界全体の人材育成に役立てたら幸いです。

最後に、本事業の開催に際してご協力頂いた、県立鶴岡工業高等学校建築科の皆様をはじめ、見学現場をご多忙中にもかかわらず提供していただいた会員会社ならびに各現場担当者の皆様、大変お世話になりました。

今後とも、当事業に対しまして、変わらぬ御支援と御協力のほど、よろしく願います。また、事業の企画に際して鶴岡支部青年部の役員ならびに部員の方々、ありがとうございました。



アンケート結果について

1. あなたの進路について

☆就職ですか進学ですか（回答数：35） **グラフ①**

●就職 21名（60.0%） ●進学 14名（40.0%） ●未定 0名（0%）

☆就職は県内・県外どちらを希望しますか（回答数：21） **グラフ②**

●県内 15名（71.4%） ●県外 6名（28.6%） ●未定 0名（0%）

☆どんな職業を希望しますか（回答数：21） **グラフ③**

●建設業 16名（76.2%） ●建設業以外の会社員 4名（19.0%）
●公務員 1名（4.8%） ●その他（未定） 0名（0%）

2. 建設業についてどんなイメージを持っていますか

☆建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか。（回答数：35名） **グラフ④**

●そう思う 35名（100%） ●そう思わない 0名（0%）

☆建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか（回答数：35名）

●そう思う 35名（100%） ●そう思わない 0名（0%）

グラフ⑤

3. 高校生現場見学会について

☆今回の高校生現場見学会は進路の参考になりましたか。（回答数：35名） **グラフ⑥**

●参考になった 35名（100%） ●参考にならなかった 0名（0%）

4. 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいですか

●給与 23名 ●勤務時間 18名 ●休日 22名 ●福利厚生施設 8名 **グラフ⑦**

●仕事の内容 29名 ●仕事に必要な資格 27名 ●その他 0名

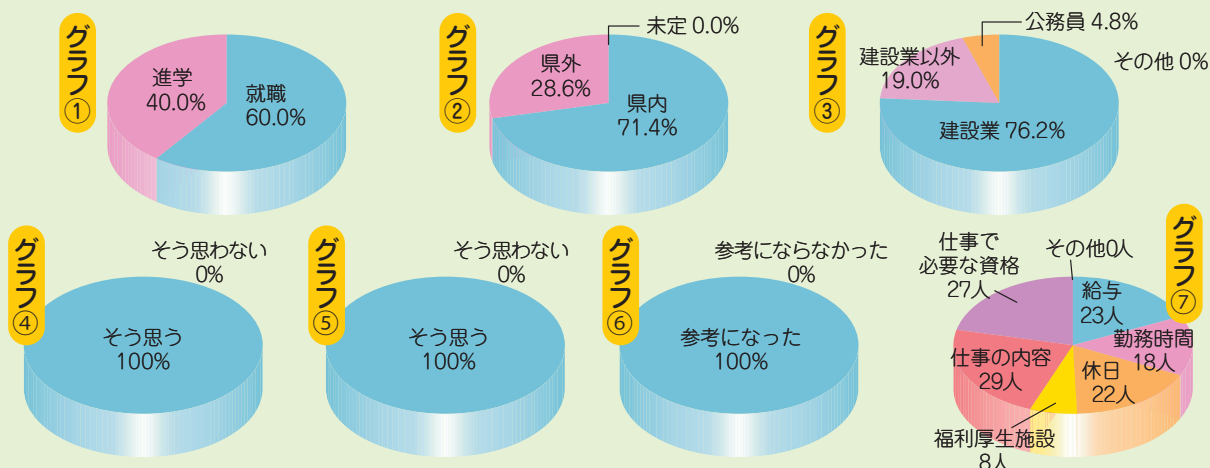
5. 現場見学会を終えての感想・要望

感想

- 県内・県外で働く事のメリットやデメリットを聞き考えが変わってきた。
- 社会人と高校生の考えの違いがあり働くことに対してのイメージが変わった。
- ドローンの映像があってよかった。
- 具体的な仕事内容や工事手順など聞いて参考になった。
- 班の皆と活発な話し合いができてよかった。

要望

- 実際に仕事をしている所の動画があるとイメージが湧いてもっとわかりやすい。
- 質問の時間が足りなかった。
- 現場で活躍している女性の声も聞きたかった。



令和3年度 鶴岡公園ボランティア活動 事業報告



地域貢献委員会
委員長 佐藤 直

毎年実施している「鶴岡公園ボランティア活動」を令和3年7月21日に実施しました。今年で、第19回目となる青年部としても長く活動を行っている事業です。

鶴岡市都市計画課と鶴岡市支部青年部にて打合せをし、地元高校の鶴岡工業高校、鶴岡中央高校の生徒と鶴岡公園の美化活動を行う事業です。

しかし、今年もなかなかコロナの感染状況もよくならず、高校生と一緒に活動は、安全第一と考え、見送ることとなりました。

当日は、青年部23名、青年部OBも2名参加していただき、鶴岡市都市計画課 公園緑地係の職員の方々と一緒に、菖蒲園池の浚渫作業を行いました。

小型重機2台で、2班に分かれて一輪車で土砂を人力運搬する作業とな



りました。

土砂の量も多くて、運搬するのも大変な作業でしたができる限り運搬しようとみんなでがんばりました。天気にも恵まれて、各自熱中症にならないように、水分補給、休憩をこまめに取りながらの作業となり、ケガなどもなく終えることができました。

最後に活動に対して事前の準備から当日のご指導までご協力いただきました鶴岡市都市計画課の職員の方々はじめ関係各位に心より感謝申し上げます。これからも、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

令和3年度 総務交流委員会 事業報告



総務交流委員会
委員長 榎木 晴紀

本年度の総務交流委員会の活動は、定時総会と歓送迎会、水辺で乾杯、酒田支部との交流事業、臨時総会と新年会を行う予定ではあったのですが、昨年度に引き続きのコロナ禍での活動ということで、水辺で乾杯及び酒田支部青年部との交流事業、新年会は残念ながら中止、臨時総会も書面での開催となりました。

それでも機に恵まれ、皆様方のご理解もあったことで、会員の意見を直接反映することのできる貴重な機会である定時総会、また卒業生との最後の交流の場であり新入部員との顔合わせの場でもある歓送迎会が開催できたことは何よりであった



と思います。

青年部活動に限った話ではありませんが、総務交流委員会もまたその性質上思うように活動のしにくい年でありましたし、私自身も初の委員長としての活動で至らぬ点やご迷惑をおかけすることもありました。皆様方にお力添えいただき、深く感謝しております。

皆様方には今後とも変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。

令和3年度

卒業の言葉

青年部卒業によせて



小野寺建設 小野 五十嵐 大輔

平成26年3月の入部以来8年間、鶴岡支部青年部にお世話になりました。

卒業を迎えた今だから言えますが、入部当初は、あまり積極的に関わる意思もなく、仕方なく事業に参加し始めたことを覚えています。しかし、振り返ってみると1年目の研修視察を除いた他の事業行事全てに参加し、部員の皆さんと共に汗を流してきました。青年部活動に正面から向き合って取り組むことができた最大の要因は、活動を通じて得ることができた最高の財産である「仲間」の存在が大きいと思っています。

鶴岡支部青年部における役員としての活動のみならず、県連絡協議会への出向など、様々な経験と勉強をさせていただきました。

また、令和2年度からの2年間は、鶴岡支部青年部第17代目部長としての任務を仰せつかりました。部長としてスタートした令和2年春は、まさに新型コロナウイルスの全国的な感染拡大が始まった春でもありました。例年春に行っている定時総会も当時は

まだ馴染のない「書面決議」なる形式で開催し、各種事業の延期や中止を常に頭の片隅に置きながら、様々な制約がある中での運営となりました。

昨今、全国的に頻発する自然災害等の有事の際、地元建設業が果たすその役割は非常に大きく、今後も地域の安全安心を担う責務が期待されているところでもあります。「地域の守り手」である担い手確保に向けた取り組みが青年部の最も重要な仕事であると考えています。山田和博新部長のもと、現役部員の皆様には、青年部の積極的な発想と柔軟な行動力をもって益々ご活躍されることをご祈念申し上げます。

最後になりますが、山形県建設業協会鶴岡支部の親会をはじめ、ご指導とご支援ご協力をいただきました皆様に心より感謝を申し上げます。大変お世話になり、誠にありがとうございました。

卒業の言葉



菅原建設 菅原 佐藤 渉

今年青年部を卒業した菅原建設の佐藤渉です。平成27年に入部して7年間お世話になりました。入部当初は青

年部活動内容が分からず心配でしたが河川愛護活動やボランティア活動等で部員の間などと一緒に体を動かして時には冗談話などで盛り上がりながら馴染んでいきました。研修視察では台湾のスパイラル超高層マンション建設現場見学にて海外現場のルールや監理体制などを学ぶことができ貴重な体験をさせていただきました。

青年部は堅苦しい雰囲気もなく和気あいあいとしながらもやる時にはしっかりとやる体制はすばらしいと思います。入部しなければ知り合う事が出来なかった人たちとの交流を深めることができたのも貴重な時間となりました。

また、現場見学やボランティア活動で高校生との触れ合いで生の声や考え方を聴くことができたのも良い経験となりました。少子高齢化は続いていて建設業も現在担い手不足となっているので学生から興味を持ってもらえるよう今後も交流を継続・発展を期待・応援しています。

この青年部で得た経験や仲間が今後の財産になると思います。青年部の皆さんとは今後も顔を合わせる機会があると思います。気軽に声をかけてください。

最後になりますが部長始め青年部の方々の益々の発展と部員皆様のご活躍をお祈りします。

卒業にあたり



大栄 富樫 徹

令和元年度に入部し青年部員として活動させていただきました。

卒業まであと1年でしたが、3年間という短い期間ではありましたが、青年部の活動を通じて各社の部員の方々と交流することができ、様々なことを学ばせていただきましたことを感謝いたします。

河川愛護活動、鶴岡公園ボランティア等の地域貢献、高校生現場見学会など、貴重な経験もさせていただきました。入部した年、北海道研修視察に参加した時は、またこんな研修に行きたいと思っていました。コロナの影響で中止となり大変残念な結果でした。

様々な活動に参加したことで、自身のスキルアップにもつながり、とても感謝しております。

最後になりますが、青年部のますますの発展と皆様のご活躍を期待して卒業の言葉といたします。本当にありがとうございました。

令和4年度

入部の言葉

青年部入部にあたって



小野寺建設㈱

小野寺 克将

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部へ入部させていただくことになりました、小野寺建設株式会社の小野寺克将と申します。あらためましてよろしくお願い致します。

私は土木工事に携わって7年になりますが、これまで他社の皆さんとは交流する機会は多くはありませんでしたので、今年度より青年部の一員とさせていただき、他社の皆さんと活動と交流を行えることを楽しみに思っております。

先日、定時総会に出席させていただき、前年度の活動報告を拝聴しコロナ禍での制約が伴う中、担い手の確保・社会貢献等に繋がる様々な活動を行っていることに感銘いたしました。

青年部の活動を通し、鶴岡地区の建設業の発展に少しでも貢献できるように積極的に活動に参加させていただきたいと思いますので、皆様のご指導・ご鞭撻をよろしくお願い致します。

青年部入部の言葉



㈱大栄

佐藤 安光

このたび建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただくこととなりました㈱大栄の佐藤安光と申します。

青年部活動については同じ会社の先輩から活動内容はある程度聞いておりましたが、まだまだわからないことがたくさんあり戸惑うこともあります。積極的に青年部活動に参加していきたいと思っています。

私はこの業界に従事してまだ日が浅く同業者の方々と接する機会が少なかつたと思います。この機会を大事にして経験豊富な先輩部員の方々と交流を深め、少しでも自分自身のスキルアップに繋がればうれしく思います。所属は地域貢献委員会になりますので社会貢献活動やボランティア活動に参加し建設業界のイメージアップや青年部の発展のため微力ではありますが精一杯頑張りますのでご指導の程よろしくお願い致します。

青年部入部の言葉



㈱マルゴ

渡部 諒

今年度より鶴岡市建設業協会青年部に入部いたしました株式会社マルゴの渡部諒と申します。

会社に入社し建設業には携わっておりましたが、青年部がどのような活動を行っているのか正直わからず不安でしたが先日定時総会のほうに参加させていただき建設業を盛り上げていくために様々な活動を行っていることを知り、私もその一員として活動を行えることがとても楽しみになりました。

近年、建設業に関しましては各種共に若い世代の人員の確保・育成がとても重要視されております。青年部の活動を通して建設業のやりがい・魅力を伝えられるよう努力していきたいと思えます。

微力ではございますが青年部の発展の為に精一杯頑張りますので、ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

青年部入部の言葉



㈱誠朋建設

相馬 雄祐

今年度より建設業協会青年部に入部させて頂くことになりました㈱誠朋建設の相馬と申します。私自身、20年程度建設業に携わって参りましたが、建設業における専門分野等の幅広さや奥深さ、またその重要性や素晴らしいさを最近になってますます感じるようになりました。先日の定時総会において、青年部の事業報告・計画を拝聴させて頂きましたが、各委員会を軸とした継続的な活動に『これから自分には何ができるだろう』『何か青年部のために役立てるだろうか』などと不安な気持ちではあります。企業間のつながりや取組みへの参加は大いに自分へのプラスとなると感じています。これから先輩部員の指導のもと青年部活動を通じて地域と一体感のある社会貢献の一端を担えればと思っています。

最後に、不慣れな点や至らぬ点などあるかと思いますが精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。



現場紹介

鶴岡市屋内多目的運動施設 整備工事

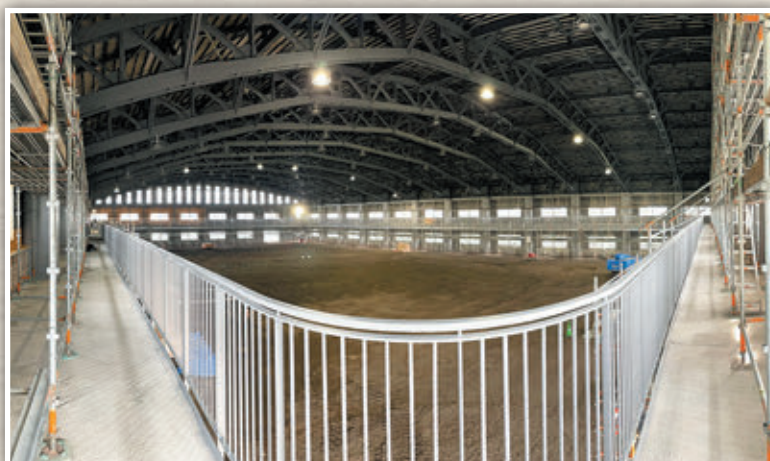


マルゴ・十和・三浦
特定建設工事共同企業体
(株)マルゴ
現場代理人
齋藤 嘉仁

本工事は、鶴岡市民の健康づくりのための生涯スポーツ活動や、競技力向上を目的とした練習の場として、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の市民誰もが気軽に利用できる施設環境の充実を図って鶴岡市が発注した工事です。工事概要は、S造の地上2階建て、延べ床面積5,402㎡、最高軒高16.6mの全面人工芝の屋内運動場です。工期は令和2年3月26日～令和3年9月30日迄の工事でした。その中で特に留意した鉄骨建て方の精度の確保についてご紹介します。

① アンカーボルト精度の確保

この屋内運動場は、48mのスパンをアーチ型をしたトラス構造の梁で飛ばしています。それを□900×900×36のコラムで1本で13tもある柱で支えています。アーチは全部で11本あり建入れ精度を出すのは非常に大変だと思いました。そこで、柱の建込み位置も重要であると考えアン



カーボルトの打込み精度の確保が必要でした。本工事はハイベースを採用しているため、基礎配筋に先立ちフレームに組んだアンカーボルトを設置します。墨出しの精度の確保、設置後の確認、配筋完了時の確認、型枠完了時打設前の確認、打設直後の調整と何度も確認・修正を行い精度を確保することができました。特に配筋後の調整は、基礎配筋D25が上下で52本も入る梁があり、鉄筋を通す位置の検討・鉄筋に当たっているアンカーの調整と非常に苦労しました。

② トラス梁の地組精度の確保

建入れ制度を確保するうえで、トラス梁の地組精度が重要であると考えました。トラス梁は11本あり、組みあがると24tにもなります。地組ヤードのスペースも限られていますし、揚重機的能力も限られているので、建て方の進捗に伴い移動しながら建て方を進め

る計画としました。地組は土留め材を利用した架台の上で行いました。移動するたびにレベル・通りを管理しました。地組は11本すべて同じ寸法で組上げないといけません。48mのアーチ型をしているうえ、24tもあるので調整も非常に大変でした。全てのピースを仮組した状態で上弦材と下弦材の直線寸法とアーチ頂点部の寸法を確認・調整しました。本締め後も同様に確認しました。地組寸法は梁を納めた時に自重でたわんで伸びることが懸念されたので、設計寸法よりも長くし地組寸法としました。その甲斐あってか、鉄骨の建入れ精度を基準値以内とすることが出来ました。

最後に工事関係者・施工協力業者の皆様の技術と経験を活かし、無事完成できたことに感謝いたします。

●発行日 令和4年8月26日 ●発行責任者 青年部長 山田 和博／技術研修委員長 佐藤 友介 ●住所 山形県鶴岡市茅原字西茅原16
TEL(0235)22,2364 FAX(0235)22,2280